

## ―管内経済は、緩やかに回復している―

### (管内経済情勢報告)

本報告は、28 年 10 月判断以降に公表された経済指標等をもとに 29 年 1 月における管内経済の概況をとりまとめたもの

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、海外景気の下振れなど、景気が下押しされるリスクが存在しており、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

#### 【総括判断】

前 回 (28 年 10 月判断)	今 回 (29 年 1 月判断)	前回比較	総括判断の要点
緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している	↑	個人消費はスーパーやコンビニエンスストアの販売が堅調となっており、緩やかに回復しつつある。生産活動ははん用・生産用・業務用機械、輸送機械等が上昇しているなど緩やかに回復しており、雇用情勢も着実に改善している。

(注) 29 年 1 月判断は、前回 28 年 10 月判断以降、29 年 1 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

#### 【各項目の判断】

	前 回 (28 年 10 月判断)	今 回 (29 年 1 月判断)	前回比較
個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
設備投資	28 年度は前年度を上回る計画となっている	28 年度は前年度を上回る計画となっている	→
輸 出	前年を下回っている	前年を下回っているものの、足下では増加に転じている	→
生産活動	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している	↑
企業収益	28 年度は減益見通しとなっている	28 年度は減益見込みとなっている	→
雇用情勢	改善している	着実に改善している	↑

#### 【主な項目】

##### 個人消費 <緩やかに回復しつつある>

百貨店・スーパー販売額は、全体では前年を下回っているものの、スーパーでは惣菜など飲食料品が堅調となっており、百貨店では高額品消費や免税売上に回復の動きがみられることから、減少幅は縮小傾向にある。

コンビニエンスストア販売額は、カウンター商品や惣菜の売上が増加していることなどから、堅調となっている。

家電販売額は、全体では前年を下回っているものの、4Kテレビや、エアコン等の季節家電が堅調となっている。

乗用車の新車登録届出数は、ハイブリッド車や新型車が好調となっており、軽自動車に回復の兆しがみられることから、前年を上回っている。

旅行取扱の状況は、国内旅行で関東甲信越方面が堅調となっており、海外旅行ではオセアニア方面が好調なもの、欧州方面などの動きが鈍くなっている。

ドラッグストア販売額は、化粧品や一般用医薬品などが堅調となっていることから、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、全体では前年を下回っているものの、DIY用品などが順調となっている。

## 設備投資 <28年度は前年度を上回る計画となっている>

法人企業景気予測調査（平成28年10～12月期調査）でみると、28年度の設備投資は、前年度を上回る計画となっている。

製造業では、情報通信機械などが前年度を下回っているものの、電気機械、輸送用機械などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る計画となっている。

非製造業では、卸売などが前年度を下回っているものの、建設、金融・保険などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る計画となっている。

## 輸出 <前年を下回っているものの、足下では増加に転じている>

管内通関実績（円ベース）でみると、輸出は、アジア向けの鉄鋼、科学光学機器などが減少していることから、前年を下回っているものの、足下では増加に転じている。

なお、輸入は、前年を下回っている。

## 生産活動 <緩やかに回復している>

鉱工業指数（生産）でみると、電気機械などが低下しているものの、アジア向け半導体等製造装置等の増加からはん用・生産用・業務用機械が、自動車等の増加から輸送機械が上昇し、約2年ぶりの高水準となるなど、全体では緩やかに回復している。

## 企業収益 <28年度は減益見込みとなっている>

法人企業景気予測調査（平成28年10～12月期調査）でみると、28年度の経常利益は、減益見込みとなっている。

製造業では、パルプ・紙などが増益となるものの、輸送用機械、電気機械などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。非製造業では、小売などが増益となるものの、運輸・郵便、卸売などが減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

規模別では、大企業、中堅企業は減益見込み、中小企業は増益見込みとなっている。

## 雇用情勢 <着実に改善している>

有効求人倍率は33か月連続で1倍を超え、42年ぶりの高水準で推移し、緩やかに上昇している。新規求人数は増加傾向にあり、完全失業率も過去最低を更新するなど、雇用情勢は着実に改善している。

### 【その他項目】

#### 企業の景況感

法人企業景気予測調査（平成28年10～12月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。規模別では、大企業、中堅企業は「上昇」超、中小企業は「下降」超となっている。先行きについて、29年1～3月期は、大企業、中堅企業で「上昇」超、中小企業で「下降」超で推移する見通しとなっている。

#### 住宅建設

新設住宅着工戸数でみると、持家が增加しているものの、貸家などが減少していることから、前年並みとなっている。

#### 公共事業

前払金保証請負金額でみると、第3四半期では前年を下回っているものの、年度累計では予算の早期執行などから独立行政法人等や国などで増加し、前年を上回っている。

#### 金融

貸出金残高は、前年を上回っている。なお、法人企業景気予測調査（平成28年10～12月期調査）でみると、資金繰り判断BSIは、「改善」超となっている。金融機関の融資態度判断BSIは、「緩やか」超となっている。

#### 企業倒産

件数は引き続き前年を下回っている。

#### 消費者物価

大阪市の消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）でみると、被服及び履物などが上昇しているものの、光熱・水道などが下落していることから、前年を下回っている。

## 【各府県の総括判断】

	前 回 (28 年 10 月判断)	今 回 (29 年 1 月判断)	前回比較	総括判断の要点
大阪府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している	↑	個人消費は回復しつつあり、生産は緩やかに回復しつつある。雇用情勢も着実に改善している。
京都府	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	生産が緩やかに回復しており、雇用情勢も改善しているなか、個人消費は緩やかに持ち直しているなど、全体としては緩やかに回復しつつある。
兵庫県	一部に弱さがみられるものの、持ち直している	持ち直している	→	個人消費は緩やかな持ち直しの動きに足踏みがみられ、生産活動は緩やかに持ち直し、雇用情勢は改善しているなど、全体としては持ち直している。
奈良県	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↑	生産は概ね横ばいで推移するなかで、個人消費は持ち直しており、雇用情勢は改善しているなど、全体としては緩やかに持ち直している。
和歌山県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は回復しつつあり、雇用情勢は緩やかに改善しつつある。
滋賀県	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↑	生産活動は電気機械等で低下しているものの、はん用・生産用・業務用機械等で上昇しているなど緩やかに持ち直しつつある。個人消費は衣料品など一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しており、雇用情勢も改善している。

(注) 29 年 1 月判断は、前回 28 年 10 月判断以降、29 年 1 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

## 管内地域経済に関する生の声（ヒアリング結果）

### 【個人消費】

- インバウンド需要は消耗品が今期大幅に伸長。加えて高級腕時計の売行きも好調。 (百貨店・大企業)
- 食料品は堅調に推移。野菜の価格高騰による影響もあり、客単価が上昇している。 (スーパー・大企業)
- 気温の低下から中華まん等のカウンター商品が好調。惣菜も好調に推移している。 (コンビニエンスストア・大企業)
- 値頃感から 4 K テレビが堅調。高齢者、単身世帯を中心に灯油を使わなくなっており、エアコン等が好調に推移。 (家電量販店・大企業)
- 軽自動車は、軽自動車税率引上げの影響を受け減少傾向が続いていたが、足下では回復がみられている。 (自動車販売店・中小企業)

### 【設備投資】

- スマートフォン等向け有機 EL ディスプレイの量産に向けた投資を計画。 (電気機械・大企業)
- 航空機関係の生産能力向上のため、工場設備の増強投資を計画。 (輸送用機械・大企業)
- 大型物流施設の建設を計画。 (建設・大企業)

### 【生産活動】

- 半導体等製造装置は、中国向けの設備投資需要が増加しており、現状、国内の生産工場がフル稼働状態で好調を維持している。 (電気機械・大企業)
- 新型車販売好調のため、自動車部品の受注が増加しており工場はフル稼働生産となっている。 (輸送用機械・中堅企業)
- アジア向けスマートフォン用電子部品の生産が堅調となっているほか、欧米向けで車載用電子部品等の生産が大きく伸長している。 (情報通信機械・大企業)

### 【雇用情勢】

- 円安等による業績改善見通しから、電子部品・金属部品など製造業の求人が増加。また、インバウンドの影響で和菓子等の食品製造業の求人好調。 (公的機関)
- 宿泊業は不人気で人手不足が深刻な状況。特に、非正規の宴会スタッフについては、賃金を引き上げているが、募集をかけてもなかなか人が集まらない。 (宿泊業・大企業)

## —大阪経済は、緩やかに回復している—

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、回復の動きが強まっていくことが期待される。ただし、海外景気の下振れなど、景気が下押しされるリスクが存在しており、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

### 【総括判断】

前 回 (28 年 10 月判断)	今 回 (29 年 1 月判断)	前回比較	総括判断の要点
緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している	↑	個人消費は回復しつつあり、生産は緩やかに回復しつつある。雇用情勢も着実に改善している。

(注) 29 年 1 月判断は、前回 28 年 10 月判断以降、29 年 1 月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

### 【各項目の判断】

	前 回 (28 年 10 月判断)	今 回 (29 年 1 月判断)
個人消費	一部に弱さがみられるものの、回復しつつある	回復しつつある
住宅建設	前年並みとなっている	前年並みとなっている
設備投資	28 年度は前年度を上回る計画となっている	28 年度は前年度を上回る計画となっている
輸 出	前年を下回っている	前年を下回っているものの、足下では増加に転じている
生産活動	持ち直している	緩やかに回復しつつある
企業収益	28 年度は減益見通しとなっている	28 年度は減益見込みとなっている
企業の景況感	「下降」超となっている	「下降」超となっている
雇用情勢	改善している	着実に改善している